

来日岳

来日岳は標高567メートルの秀峰であり、山頂からの眺めは素晴らしく、南側には床尾山、大岡山、神鍋山等の山々が望め、東側には丹後の山並みが連なり、北側には日本海が広がっています。また、眼下には出石から豊岡、城崎、津居山港へと大パノラマが続き、ほぼ中央に円山川が蛇行を繰り返しながら下流域のラムサール湿地を通過して日本海へと流れています。

晩秋には、この円山川から立ち上る川霧が雲海となり、正面の稜線から昇るご来光や力強く波打つ雲海の壮大な眺めは、訪れる人に大きな感動を与えています。

登山ルートは4ルートあり、城崎側から登る林道（現在自動車は通行できない。）と来日の集落側からは林道（車道）と登山道（歩道）2ルートの3ルートがあります。また、登山道（歩道）は全但バスの来日口バス停付近から山陰線のガードをくぐり抜けて少し入ったところから尾根づたいに登るコースと集落の菩提寺である曹洞宗の禅寺「高峰山観音寺」からの登山ルートがあります。二つの登山道は霊峰「来日岳」として登山口から山頂まで石仏が置かれ、通称「弘法道（こうぼうみち）」と呼ばれ、現在も7月下旬の日曜日に地区住民が登山道の草刈りを行っています。

この素晴らしい「来日山」は「但馬お宝100選」にも選ばれたり、兵庫名山50にも選ばれるなど、トレッキングコース中～上級の山としても知られており、春から秋にかけて沢山の登山者やカメラマンが訪れています。



雪化粧した来日岳

登山大会



春の「新緑登山大会」

地元来日地区の有志「来日山登山実行委員会」が年2回、登山大会を主催しています。春の「新緑登山大会」は山頂で草餅の餅つき、秋の「雲海登山大会」ではイノシシ鍋等で参加者を歓迎するなど、年々参加者も増え、昨年の雲海登山では、参加者やボランティアで山頂は約160名の人で賑わいました。

最近ではインターネットで沢山の「来日山」のデータが検索でき、神戸市・加古川市・姫路市等からの参加者も増え、同実行委員会では地元の活性化とともに城崎の観光へ貢献することを切に願っています。

来日区農業の実態

来日区には農業振興地域における農用地面積が11.5ha(田)あり、この内、遊休農地面積が3.6haで全体の約3割を占めており、7.9haを各々個人で水田耕作しています。

耕作者は40歳代から80歳代に至るまで、大半が65歳以上で、高齢化・後継者不足、後継者が居ても何らかの事情で従事できない等で、将来に亘り不安と課題を残しながらでも、取り組んでいる状況です。(石橋重利委員)

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

お申し込みは農業委員会事務局へ

編集後記

◇今年から生産調整達成者に対し交付されてきた米の直接支払交付金反当り七、五〇〇円が廃止となります。

◇反当りの収穫を上げるには、「ローコストで大規模面積の栽培」「高単価の作物を小面積で栽培」の二通りの方法があると思われまます。どちらにしてもコストを下げる必要があり、作付ほ場を集約しなければならぬと思われまます。

◇農業委員会では、農地の集約、交換、中間管理機構への預入等の仲介をしています。是非一度あなたの地域・地区の農業委員と農地利用最適化推進委員に相談してみてください。

◇良好な農地・すばらしい自然を将来へ残すために、共に考えていきましょう。(Y・K)



農業委員会だより第39号は私たちが担当しました